授業科目　音響学演習

【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	言語
亀田和夫	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

<概要>
私たちは声という音波を発し、それを聴覚で捉えて意思を伝え合う。その障害に対処するのは言語聴覚士の使命の一つであり、その一歩が「音とはどんなものか」を理解することである。日常私たちは音を何の不自由もなく使いこなしているが、だからといって音を十分理解しているわけではない。音の発生と伝播、音の三要素、周波数分析などを一つずつ理解していく。基礎から学んでいくので復習を十分に行い、いつでも応用できるようにしておくことが重要である。
高校程度の数学が多少必要になるので、学生によっては数学の復習が必要になる。

<学習目標>

1. 音とはどのようにして発生するかを理解し、明確に説明できるようになる。
2. 音の伝播にはどのような性質があるか、どのように反射し、吸収されるかを理解する。
3. 音の強度はどのようにして測定されるか、その単位は何かを知り、使いこなせるようになる。
4. 周波数とは何かを知る。
5. 音の重ね合わせと複合音について理解する。
6. 音の三要素とは何かを知る。
7. 周波数分析について理解する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	純音を聞く、波形を観察する	1	実習
2	強度と周波数、聞いた印象と波形の比較、減衰と共鳴の観察	2、3 4、5	実習
3	複合音を作る、波形を観察する	5、6	実習
4	雑音を聞く、波形を観察する	5、6	実習
5	周波数分析を観察する	7	実習
6	ソナグラムによる分析の観察（1）	7	実習
7	ソナグラムによる分析の観察（2）	7	実習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	音のなんでも小事典	日本音響学会	講談社	1996年　1100円 ISBN：4-06-257150-1
参考書	声とことばのしくみ	亀田和夫	口腔保健協会	1986年　1600円 ISBN：4-89605-044-4
その他の資料				

【評価方法】
出席、講義中の応答、レポートの成績、定期試験の成績を総合評価する。

【履修上の留意点】
音響学と音響学演習は随時時間を交換して行う。

言語聴覚学科　専門